

経営比較分析表（令和5年度決算）

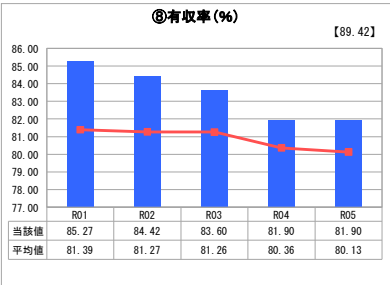
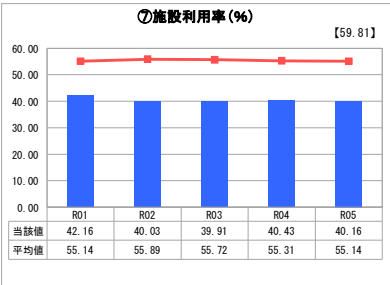
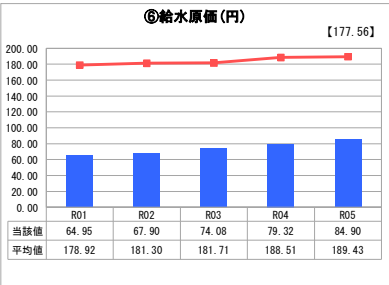
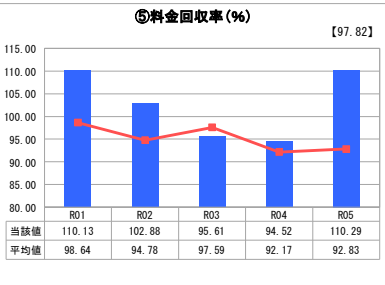
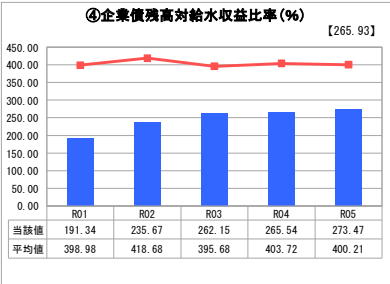
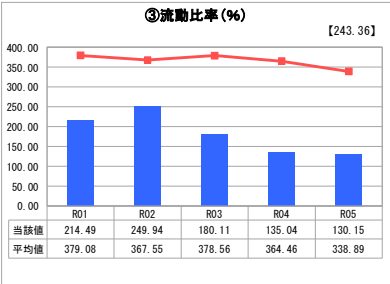
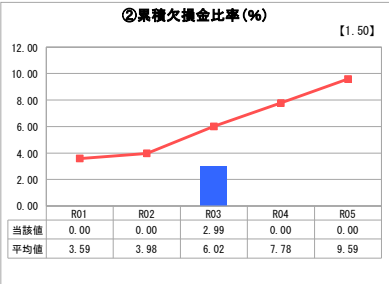
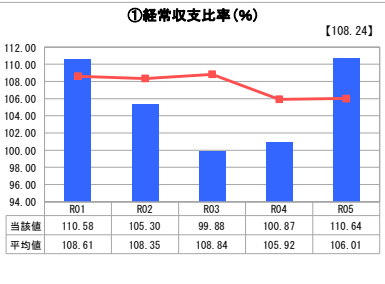
静岡県 小山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	83.16	97.74	1,397	

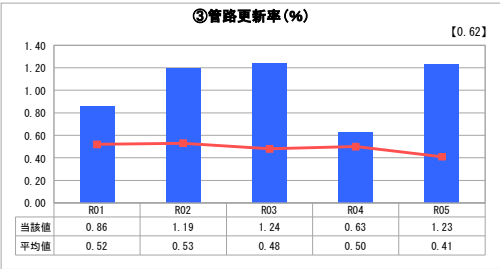
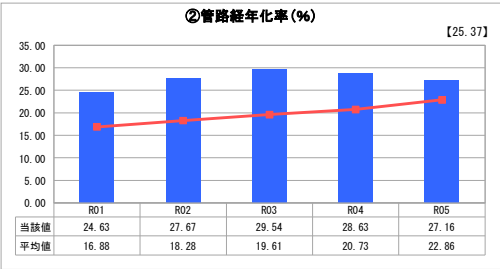
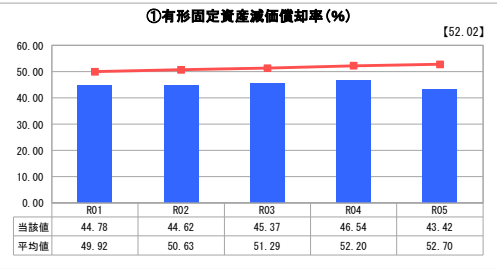
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,263	135.74	127.18
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,656	27.39	608.11

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町水道事業は綺麗で豊富な湧水及び井戸水に恵まれ、浄水施設の必要がないことから、⑥給水原価が類似団体平均の1/2以下となっています。しかし、有収水量の低下と動力費等維持管理費の増加により上昇傾向にあります。令和4年12月の料金改定実施により①経常収支比率⑤料金回収率は改善されました。また、②累積欠損金比率は令和3年度に欠損金が発生しましたが、こちらも料金改定実施により改善されました。③流動比率は減少傾向にあるため、自己資金の確保に向けた経営の効率化・財源確保に向けた長期的な戦略を策定することが必要と考えます。④企業債残高対給水収益比率は上昇傾向にある中で、類似団体と比較すると余裕があると考えられるのではなく、営業損失の解消を目指したうえで、内部留保資金残高とのバランスを考慮する必要があります。⑦施設利用率は類似団体より低いため施設の統廃合やダウンサイジングなど施設規模の見直しが必要となりますが、安定給水を使命としていることから、バックアップ体制を考慮した中で検討していきます。⑧有収率は類似団体を上回っているものの、有収水量の減少量が漏水量の減少量を上回っていることから低下を招いています。今後は施設・管路の改修等に多くの投資的経費が掛かることや人口減少による水需要の減少に伴う収益の悪化がこれまで以上に予想されます。したがって、施設の統廃合やダウンサイジングなど施設規模の見直しや広域連携を見据えた事務の見直し等を検討し、効率的かつ安全に水を供給していきます。

2. 老朽化の状況について

本町では昭和30年代から水道事業を開始し、耐用年数を過ぎた老朽管が増えてきているため、類似団体平均及び全国平均と比べ、②管路経年化率が高くなっています。その影響もあり⑧有収率が減少傾向にあるため、国の交付金（防衛）を活用し、老朽管の更新を進めています。今後アセットマネジメント計画に基づいて、現有資産の更新需要と長期的な財政状況を鑑み、施設整備（老朽管更新や耐震化）を計画的に行っていきます。

全体総括

今後上記のとおり、資産の老朽化、施設機能の適正化や水需要の減少といった課題は多くあります。本町水道事業としては、安定的に事業を継続していくことを主眼に事業運営をしていきます。そのために、経常経費の見直し・補助金や適正な料金収入等財源の確保といった財政的試算と、施設利用率向上を図るため、効率的に施設を活用するダウンサイジング・スペックダウンの検討や計画的な施設等の更新といった投資的試算のバランスを図っていきます。